

工芸

応募点数	59点	招待作品	21点
入賞点数	7点	展示点数	68点
入選点数	40点	☞は移動展出品作品	

(総 評) このたび、「今日の島根県の工芸とはどのようなものか」を自分の目と手で確かめるという思いで、会場に並ぶ作品群に向き合わせていただきました。この地域の工芸の大きな水脈は、不昧公の美意識をみなもととする美術的工芸の伝統と、柳宗悦や河井寛次郎、バーナード・リーチの考え方を受け継ぐ民藝の流れであるとして、それらと現代の作り手はどのような関わりを持っているのか、いないのか。そんな興味も抱きながら。

平成29年度の工芸部門一般応募作品は59点。そのうち40点が入選し、7点が受賞しました。審査においては、「技術の確かさ」の判断はおもに作家の先生方にお任せしながら、私は「一個の自立した作品たり得る強さがあるか」、「オリジナルな表現意図があるか」、「フィニッシュ、仕上げの精度はどうか」を判断基準に、意見をさせていただきました。

受賞作品については個々の講評に譲るとして、それらを含む入選作品および招待作品等の全体的な傾向として感じたのは、不昧公につながる工芸美を意識した作品、民藝の文脈から生まれたであろう作品は確かにあるが、それだけにとどまらず、実に多様な工芸の世界が展開されているということでした。用途性を排した所謂オブジェ的な作品までは見られませんでした。様々なタイプのレリーフ状の作品、手工芸の領域と思われる作品などが並び、工芸の定義を揺さぶるような状況が生まれていました。そこに線を引くことは可能だが、裾野を広げるという意味から言えば受け入れるべき……。こういった状況は他県でも見られるでしょうが、今この地域の人々が「工芸」をどう捉えているかが見えたように思います。

そして述べたいのは入選しなかった作品についてです。僭越ながら、それらに感じたのは、独自の表現への意識が感じられないこと、或いは、素材の特性を生かす工芸ならではの表現になっていないということでした。また、残念だったのは、その意識が伺えるにもかかわらず、完成度が水準にまで至っていないと思われるものが見られたということでした。一個の「作品」として公募展に出品する以上、いかに工芸としての完成度を担保するかが問われる。これは宿命的なことであろうと思われませんが、やはり重要なポイントであると私は考えます。

(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 主幹学芸員)

まつづくりふきうるしもりき
松造拭漆盛器

むら やま そう たつ
村 山 創 達 (松江市)

50回を迎える本展の記念すべき最高賞受賞作である。高度な割物の技術が生み出す造形性と、自然を生かそうとする作者の意識が引き出した、松材が持つ力強い木目の美。それが文字通りマリアージュされ、木工芸ならではのハーモニーを実現している。天や側面、そして裏、どの方向から眺めても魅力的な曲線を楽しむことができ、一歩引いて全体像を眺めれば、安定感と包容力のある豊かな造形作品として味わうことができる。技術と表現力、さらに完成度の高さが見事に合わさった、工芸の素晴らしさを実感させてくれる優れた作品である。

(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 主幹学芸員)

金 賞 ④

もめんてつむぎえがすりきものはる
木綿手紡絵緋着物「春うらら」
きのした えりか
木 下 恵理香 (出雲市)

緯緋でやわらかく表現された花びらと、その周囲を楽しげに舞う蝶たちの姿がまず目に飛び込んでくる。そして自身で染めたという玉葱由来の薄茶色の経糸が、きりつとした縞とグラデーションとを織り出し、作品全体に優しい風合いを与えている。実はこの草木染めこそが本作の表現の肝となっていると思う。題名から伺われる作者が表現したい心情、空気感のようなものがじわりと伝わってくる、魅力的な作品である。

(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 主幹学芸員)

銀 賞 ④

てんたか
天高し
おむら まちこ
小 村 眞知子 (出雲市)

目に見えないものを形にする事は、とても難しいのですが、それが出来ている作品だと思えます。空を見上げる、おばあさんの表情からは、優しさがあふれていて、語りかけてくるようです。タイトル(天高し)からは、続きの句を考えたくになります。おばあさんの横にすわり、秋を満喫したくなります。

台板が、心地よく人形を引きたてています。作者の人形への思いが、伝わってくる作品だと思えました。

(文責 吾郷江美子)

銀 賞 ④

はくとしん
白兎神
つき おか あや
月 岡 綾 (出雲市)

昨年と同じ「摺り込み染め」(型紙の彫り落とした部分に様々な色をハケで摺り込む技法)であるが、さらに技を磨き銅賞から銀賞へステップアップした。図柄も「謎解き」「連想ゲーム」のようで楽しい。「兎」→「月」→「月見草」? 「白兎」→「大国主」→「出雲大社」→「八雲(本殿の天井画で実は雲は七つ)」? まだ作者の「謎かけ」がありそうで「歌川国芳」等の「浮世絵」「絵解き」に通じる“粋(いき)”を感じる作品である。

(文責 石村 稔)

銅賞 ⑧

しがらきあみこみざら
信楽編込皿

おお 谷 江 一 (出雲市)

毎回この編込の技法で、素晴らしい世界を造りだす作者。集中力に頭が下がります。今年はどうな造形美の作品が出てくるのか、私にとって楽しみの方です。この度は、曲線を出来るだけ簡素化し、どんな盛付をイメージし造られたのか……私は私なりにたくさん想像し、顔が自然に笑えてくる。そろそろ違う方向の、立体的な造りに取り入れることはできないか……ますますのご活躍を。(文責 福郷 徹)

銅賞 ⑨

あか
灯り

た 中 勇 夫 (出雲市)

樺の板を三枚組合せたスタンドである。堅い樺材は角を削り、樺の持つ独特の美しい木肌を生かして柔かく伸びやかに仕上げる。板の厚さや口囲りの表情、三方のスリットの位置などに苦心の跡が見られる。

意匠や光量など改良の余地もあるが、木工芸の新しい方向性を示すものとして評価される。(文責 藤間 寛)

銅賞 ⑩

づく れつもん か き
ひも作り裂文花器

なか お 尾 厚 子 (津和野町)

土紐を下より積み重ね上げ、内と外側より軽く全体を締め成型された無釉の花器で、土そのものの味が生きています。亀裂も故意なく自然に出てきていて飽きがきません。古の土器の様で焼物の原点を思わせます。また女性の仕事とは思えない力強い優作と云えましょう。(文責 石飛 勝久)

入 選

題 名	氏 名	備 考
桑象嵌短冊箱	井 上 雅 洋 (出雲市)	島根工芸連盟賞
待ち心	大 草 章 代 (出雲市)	
慈しむ	上 野 幸 美 (出雲市)	
焼締花器	西 田 哲 郎 (奥出雲町)	
般若心経	金 森 惣 司 (松江市)	
炭火茶碗	遠 藤 京 子 (松江市)	
型染タペストリー 四角になった葉っぱ	神 田 立 (松江市)	
青のとき	鳥 谷 幸 代 (松江市)	島根工芸連盟賞
蓋付き かいらぎ花器	郡 司 位 秀 (松江市)	
春風	松 本 輪加子 (松江市)	
茶碗1	森 山 晴 夫 (出雲市)	

題名	氏名	備考
茶碗2	森山晴夫(出雲市)	
紙塑和紙貼 波の花	本常信代(松江市)	
かけわけ 小鉢	戸谷伊予子(松江市)	
銀の音色と赤鉄鉢	日野原七重(松江市)	
松灰釉茶碗	江村一雨(松江市)	
共手器	藤井淑美(松江市)	
トルコ青マット釉曲線彫文壺	小糠弘昭(松江市)	
経机	植田功(松江市)	
ジオパーク隠岐	吉山郁代(隠岐の島町)	島根工芸連盟新人賞
marble	田中文哉(松江市)	
水指(焼締)	森脇凱人(松江市)	
灰釉茶碗	森脇凱人(松江市)	
壺(焼締め)	岡義雄(松江市)	
夏のお思出	梶岡修(安来市)	
花生	越野良一(松江市)	
裂文水指	越野良一(松江市)	
鎬手青瓷大壺	山田正彦(松江市)	
粉引刷毛目茶碗	板倉清之(出雲市)	
大皿	伊藤康徳(松江市)	
⑤ 鉄釉ぶどう文大壺	江戸端実(大田市)	
⑤ 練込文花瓶	堂面とき子(川本町)	島根工芸連盟新人賞
⑤ 釉掛け分け大鉢	水上隆(大田市)	
黒釉麻の葉彫紋花入	荒尾久美(大田市)	
⑤ 黒釉彫紋花入	荒尾久美(大田市)	島根工芸連盟賞
⑤ 緑釉丸大皿	螺山勝實(浜田市)	
⑤ 樺造花台	広兼勇(益田市)	
⑤ 地獄蟻組造樺箱	広兼勇治(益田市)	島根工芸連盟賞
⑤ 茶盤 竹島	嘉戸昇柏(江津市)	
⑤ 練込楕円皿	山崎三仁(大田市)	

招待

題名	氏名	備考
⑤ 鉄釉椿文鉢	柳楽勝重(出雲市)	
⑤ 沈泥彩緑釉蓋物	犬山卓也(出雲市)	
広瀬耕着物 - 春驟雨 -	永田佳子(安来市)	
⑤ 神代杉象嵌平卓	深田学(雲南市)	
⑤ 型絵染 帯	黒川裕子(江津市)	
夜神楽	吾郷江美子(出雲市)	
⑤ 鈎窯大鉢	荒尾浩之(大田市)	
布張蒔絵溜塗角盆「オロチ=火山」	石村稔(松江市)	
海鼠釉大鉢	福岡瑠士(松江市)	

	題名	氏名	備考
	練り上げ長方皿	石 飛 勝 久 (雲南市)	
㊦	ほら紵織り 菱紵生絹着尺「雨あがるまで」	松 浦 弘 美 (松江市)	
㊦	茶盃 “照応”	福 郷 徹 (益田市)	
	省胎七宝 bowl 「春韻」	松 本 三千子 (松江市)	
	柿斜紋箱	渡 部 良 和 (雲南市)	
㊦	木照【華の舞Ⅱ】	藤 原 正 (出雲市)	
	Everlasting	川 辺 雅 規 (出雲市)	
㊦	縹縹矢羽根文花入	内 田 和 秀 (松江市)	
	櫛造拭漆花器	濱 田 幸 介 (松江市)	
	神代杉桐象嵌結界	正 木 潤 (出雲市)	
	櫛二重造 (内槐) 焦文棗「蘭」	多々納 利 雄 (出雲市)	遺作
	縹黒檀造貝象嵌香合「三交輪」	多々納 利 雄 (出雲市)	遺作